

コンポスト

大きなごみバケツの底が抜けたような形をしており、生ごみなどと土壌を触れさせて、土の中の微生物の作用で生ごみの有機成分を分解し、堆肥化します。

台所から出る生ごみのほか、落ち葉や草などの庭ごみも入れてかまいません。土の自然の作用で、発熱、発酵、分解して容積が減り、堆肥化する仕組みです。

使用方法

1 設置

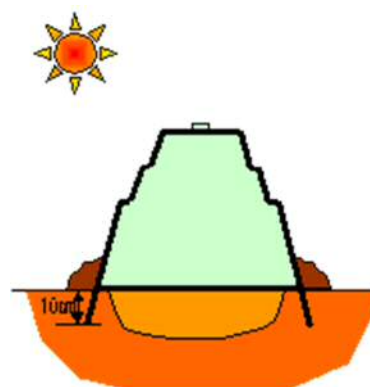
庭など、屋外の土の上に設置します。水はけ、日当たりの良いところを選び、土の中の微生物が活動しやすいように土の表面を柔らかくしてから、容器を10cm程度の深さに埋めてください。

※ 強風で飛ばされないためです。容器の周りには土を寄せましょう。

2 生ごみの投入

なるべく水を切って、生ごみの上面が平らになるように投入してください。

生ごみが20cm程度推積したら、1～2cmの厚さに土をかけて土の中の微生物を補給すると分解が早まります。また、1週間に1回程度の割合で棒などで生ごみをかき混ぜて空気を通すのも有効です。



ワンポイント

土の代わりにカドタ式のタネ（後述）をかけると、更に分解が早まり、堆肥化が進みます。

3 水分の調整（発酵促進と悪臭防止）

水分が多いと嫌気性菌が増え、悪臭が発生しやすくなります。生ごみを水切りするほか水分の少ないもの、例えば落ち葉、枯れ草、わら等を入れて水分を調整したほうが発酵が促進され、臭いも抑えられます。米ぬかなどの発酵促進剤、脱臭剤等を使用すると更に効果的です。

4 虫の防除

容器内は悪臭や虫の発生源となりやすいので、蓋は閉めてください。虫が気になる場合は、土を多めにかける、土の中に埋めてしまう、殺虫剤を使用するなどに対応してください。

5 堆肥化

土の中の微生物が生ごみを「発酵・分解」し、堆肥化します。堆肥になるまで、投入物などで異なりますが、数か月かかります。

6 完成

コンポストの底のほうの熟成した堆肥はすぐに使っても構いませんが、上のほうなど未熟なものは土の中に1か月程度埋めて、熟成させてから使用してください。

ワンポイント

容器を置いていた所の底土は肥料分が豊富ですから、5～10cm程度土を掛け、その上に種まきや苗植えをすると良く育ちます。